

MRT株式会社

2019年3月期
決算説明資料

2019年6月21日

I. 企業価値

II. 2019年3月期 決算概要

III. 2019年12月期 業績予測

APPENDIX : 市場環境の現状

I. 企業価値

II. 2019年3月期 決算概要

III. 2019年12月期 業績予測

APPENDIX : 市場環境の現状

① **東大医学部発**医療ベンチャー ※2014年東証マザーズ上場
90%以上が口コミで集まった医師会員組織

② 取締役の**過半数**が医師
徹底した医療現場主義・医師目線

③ 医療のプラットフォーム
医療従事者 会員 **25万名** ※2019年5月17日時点、グループ全体

2000年1月
法人化

2014年12月
マザーズ上場

東大医学部附属病院の医師
(互助組織形態)

MRT
(株式会社形態)

医師の信頼関係で
つながった組織

医師同士が信頼関係のもと外勤(代診)
を相互に紹介する仕組みを形成

IT技術を活用して
システム化

信頼関係の継続と効率化により多くの
医師及び医療機関のマッチングを可能に

■ 医療現場主義・医師目線のサービス提供が強み

役職	氏名
代表取締役社長	小川 智也 (医師)
取締役会長	富田 兵衛 (医師)
取締役	西岡 哲也
社外取締役	明星 智洋 (医師)
社外取締役	加藤 浩晃 (医師)
社外取締役	雨宮 玲於奈
常勤監査役	加藤 博彦
監査役	原口 昌之
監査役	諫山 祐美
医学顧問	相川 直樹 (医師・元慶應義塾大学病院長)

※代表取締役社長は、2019年4月23日付けで変更しております。

■ 医師を中心に事業展開

社名	参画時期	事業			
		医療人材キャリア コンサルティング		M&A 承継 (医療機関)	プロモー ション (医師)
		医師	コメ ディカル		
株式会社NOSWEAT	2017年 1月		○		
株式会社医師のとも	2017年12月	○		○	○
株式会社CBキャリア	2018年 3月	○	○		

※コメディカルとは、看護師、薬剤師、臨床検査技師、臨床工学技士、放射線技師であります。



I. 企業価値

II. 2019年3月期 決算概要

III. 2019年12月期 業績予測

APPENDIX : 市場環境の現状

- **過去最高**売上収益を達成
- **事業整理**を実施し、営業利益減益

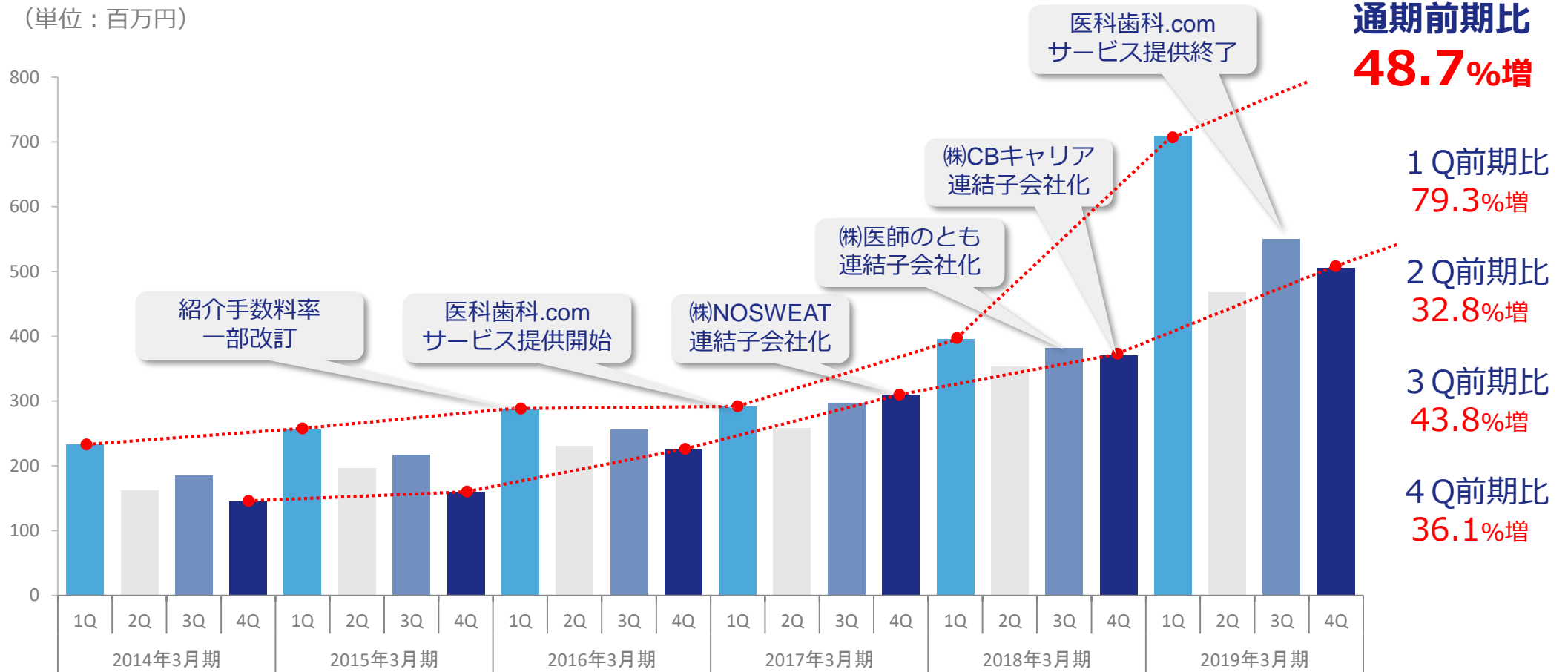
	2018年 3月期	2019年 3月期		
	実績 (百万円)	実績 (百万円)	前年比 (%)	業績予想 (百万円)
売上収益	1,501	2,232	148.7	2,100
営業利益	64	52	81.0	40
税引前 当期利益	59	160	267.6	150
親会社の所有 者に帰属する 当期利益	31	97	313.7	85

※連結業績予想は、2019年2月12日に公表しました業績予想であります。

- (対前期増減率)
- **売上収益** **48.7%**
 - ・ 医療人材紹介件数の増加
 - ・ 連結子会社の増加
 - **営業利益** **▲19.0%**
 - ・ 広告宣伝費増加
 - ・ キャリアコンサルタント人件費増加
 - **税引前当期利益** **167.6%**
 - ・ 持分法適用関連会社の株式売却、株式評価益

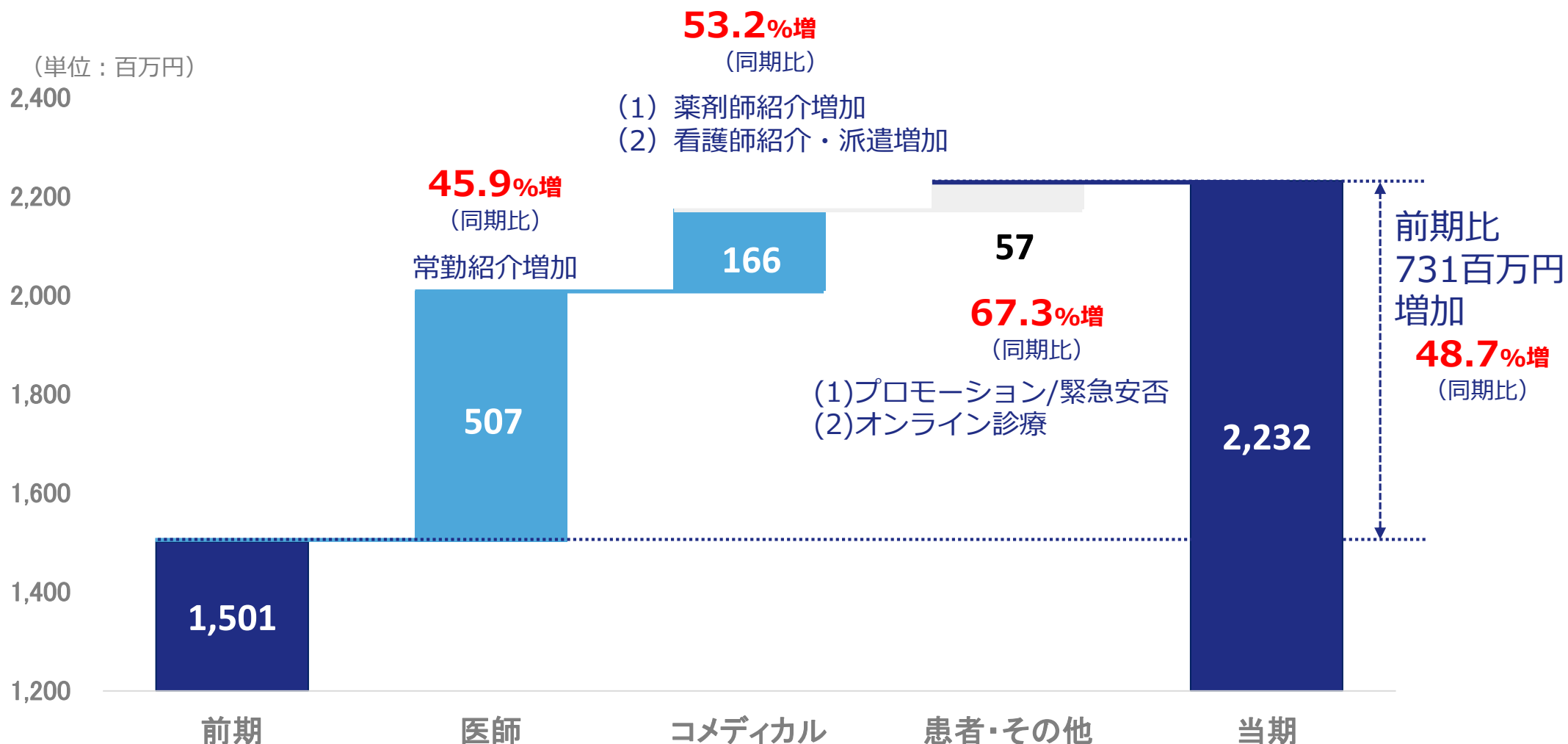
■ 2019年3月期の各四半期において**過去最高**売上収益を更新

(単位：百万円)



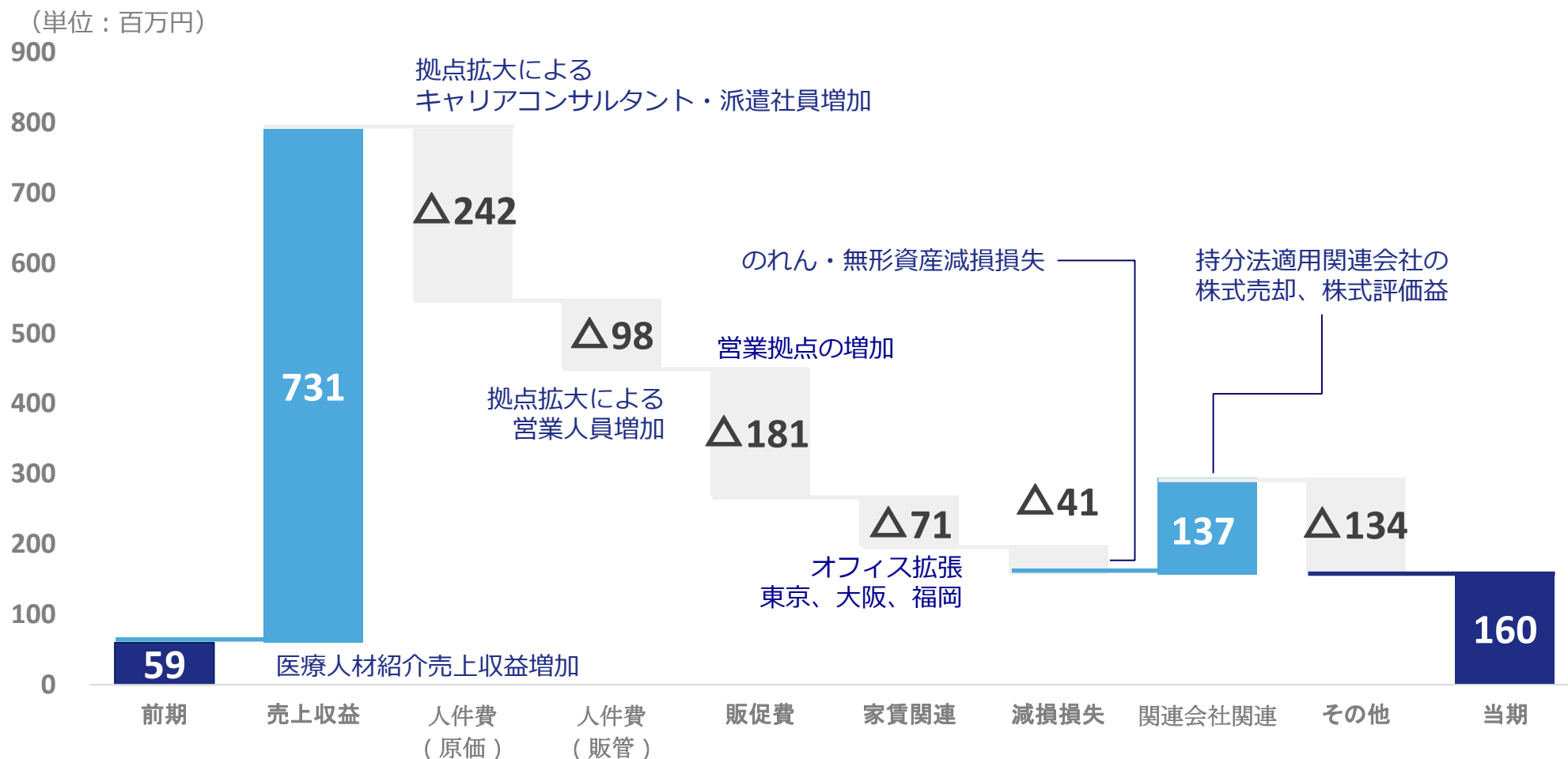
※1Qの売上収益は医師の転職件数の季節変動要因により、他の四半期に比して大きくなる傾向。2016年3月期以前の売上収益は、日本基準を記載。

■ 医療人材：紹介件数増加、子会社増加により **731百万円**増加

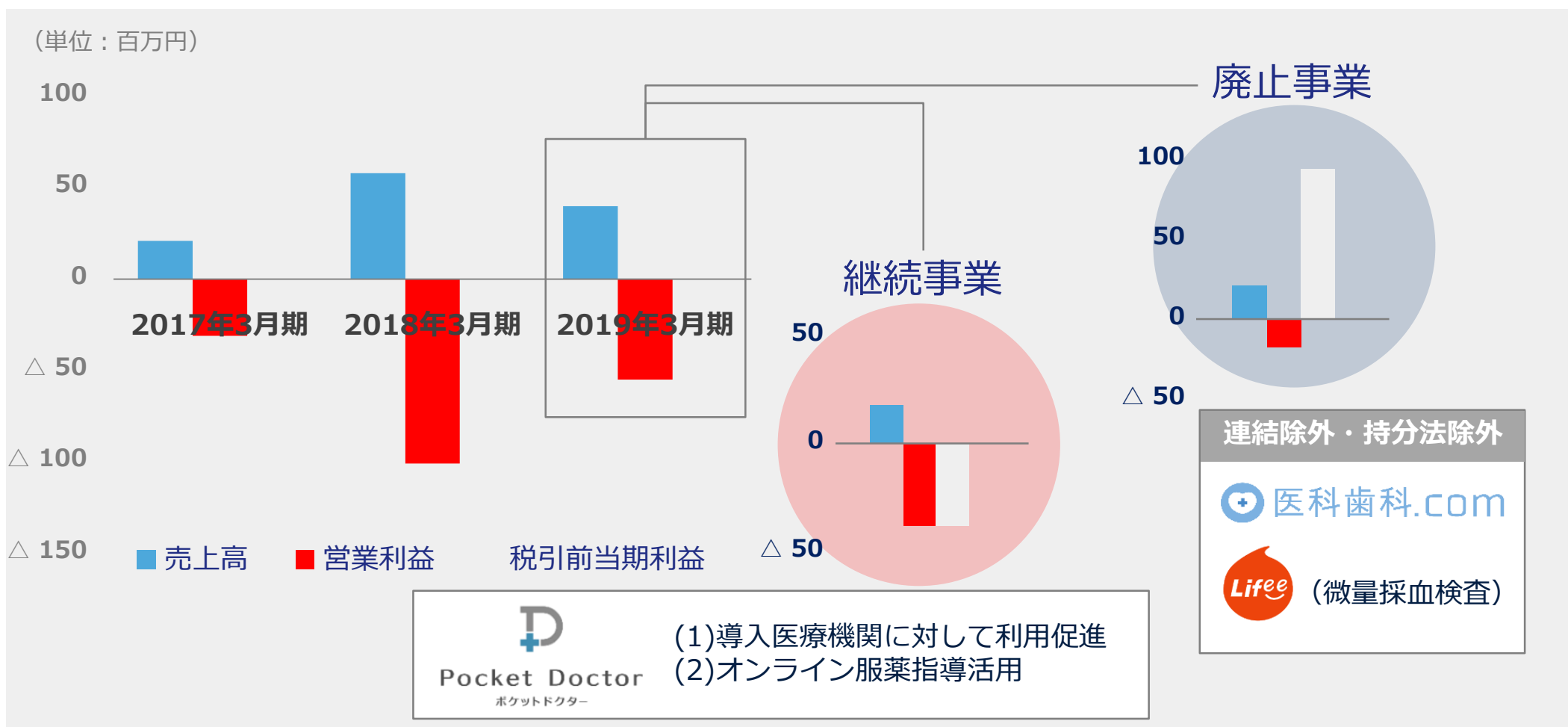


税引前当期利益変動要因

- 営業利益 : 拠点拡大に伴い、人件費・販売活動費、家賃関連の増加
- 税引前当期利益 : 持分法適用関連会社の異動により **100百万円**純増



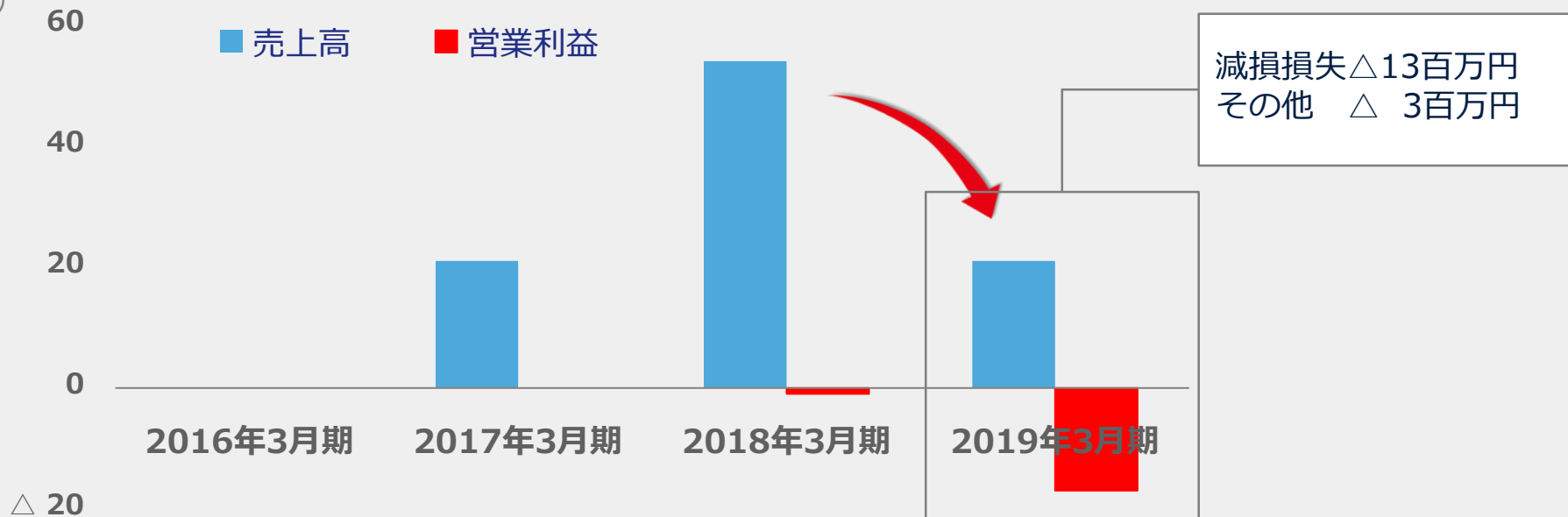
- 売上収益 : +40百万円 (△18百万円減少/前年同期)
- 営業損益影響 : △55百万円 (+46百万円増加/前年同期)
- 税引前四半期利益影響 : **+69百万円** (前年同期は△40百万円)



■ 2018年10月1日連結除外、来期以降の連結損益に与える影響 **ゼロ**

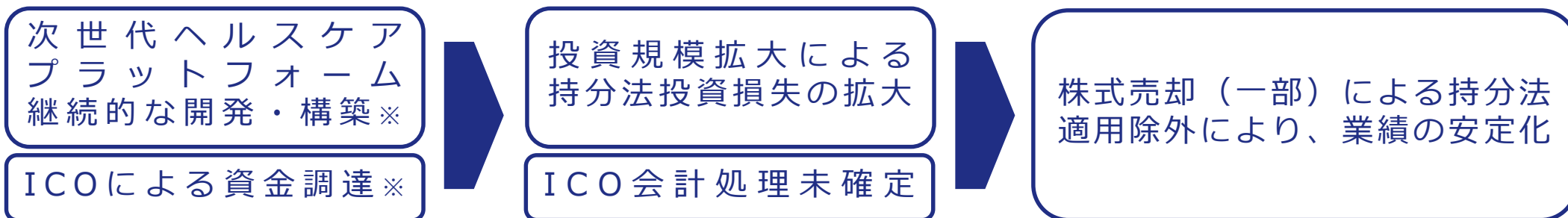


(単位：百万円)

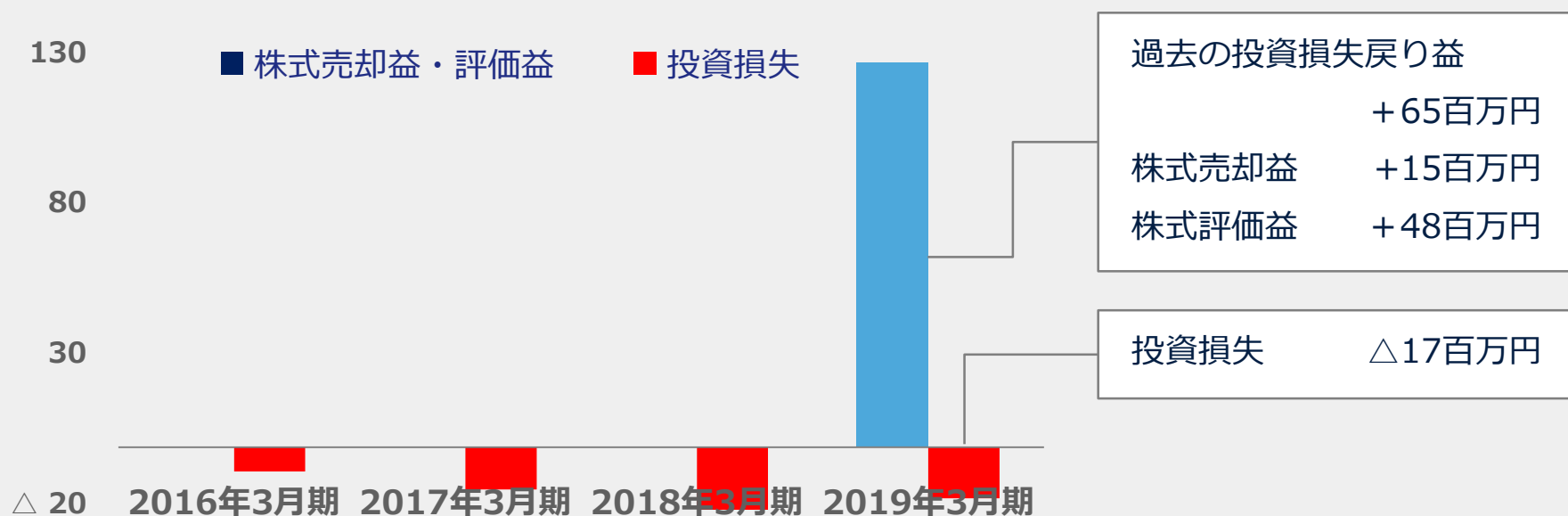


※エンパワーヘルスケア株式会社は光通信の連結子会社である株式会社アイフラッグの子会社で、「EPARK」ブランドで事業ノウハウを有する企業

■ 株式売却益/公正価値に基づく評価益 **128**百万円を利益計上
 来期以降の連結損益に与える影響 **ゼロ**



(単位：百万円)

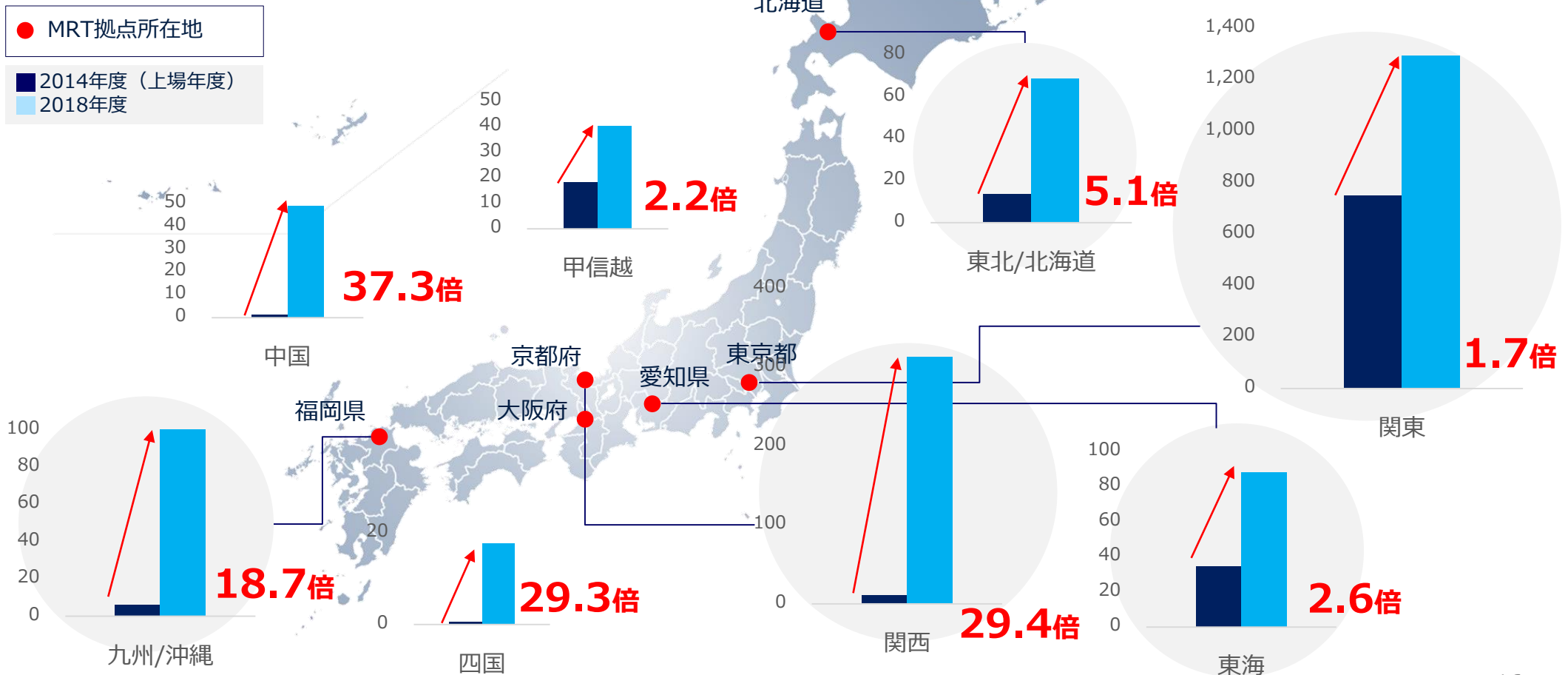


※詳細は2018年1月30日付の適時開示資料を御覧ください。

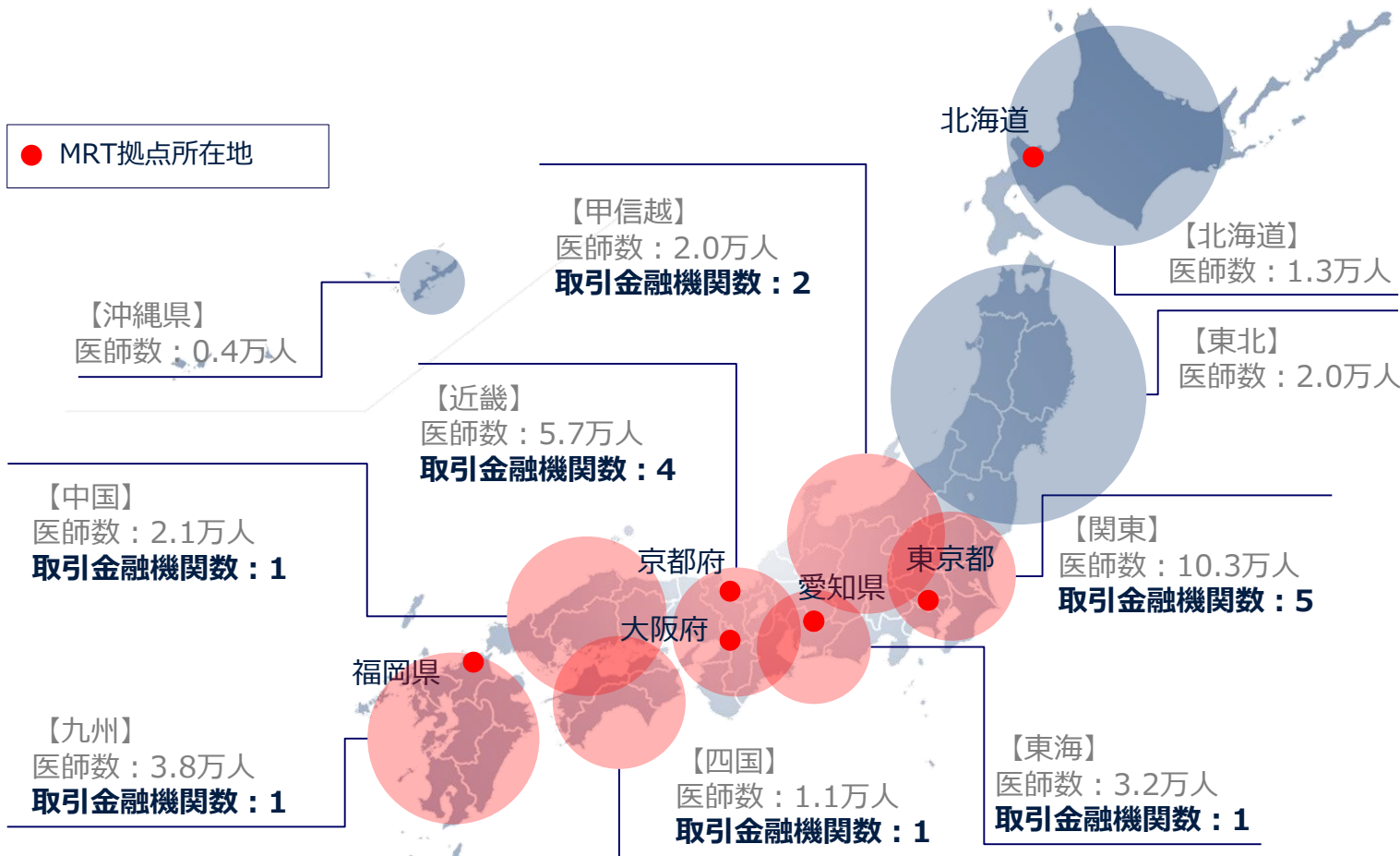
- 上場時から推進する拠点展開により売上成長率上昇
- 地域分散により売上に占める関東比率

90%(上場年度)→**65%**

(単位：百万円)



■ 全国の取引金融機関 **11** 増加 → 各地域におけるアライアンス拡大



・ 長期的な事業規模拡大
全国的な拠点展開

→ 直近は近畿、九州、
東海の拠点強化

・ 増加する資金需要への
対応
・ 各地域における
金融機関との業務連携

社債発行

3億円

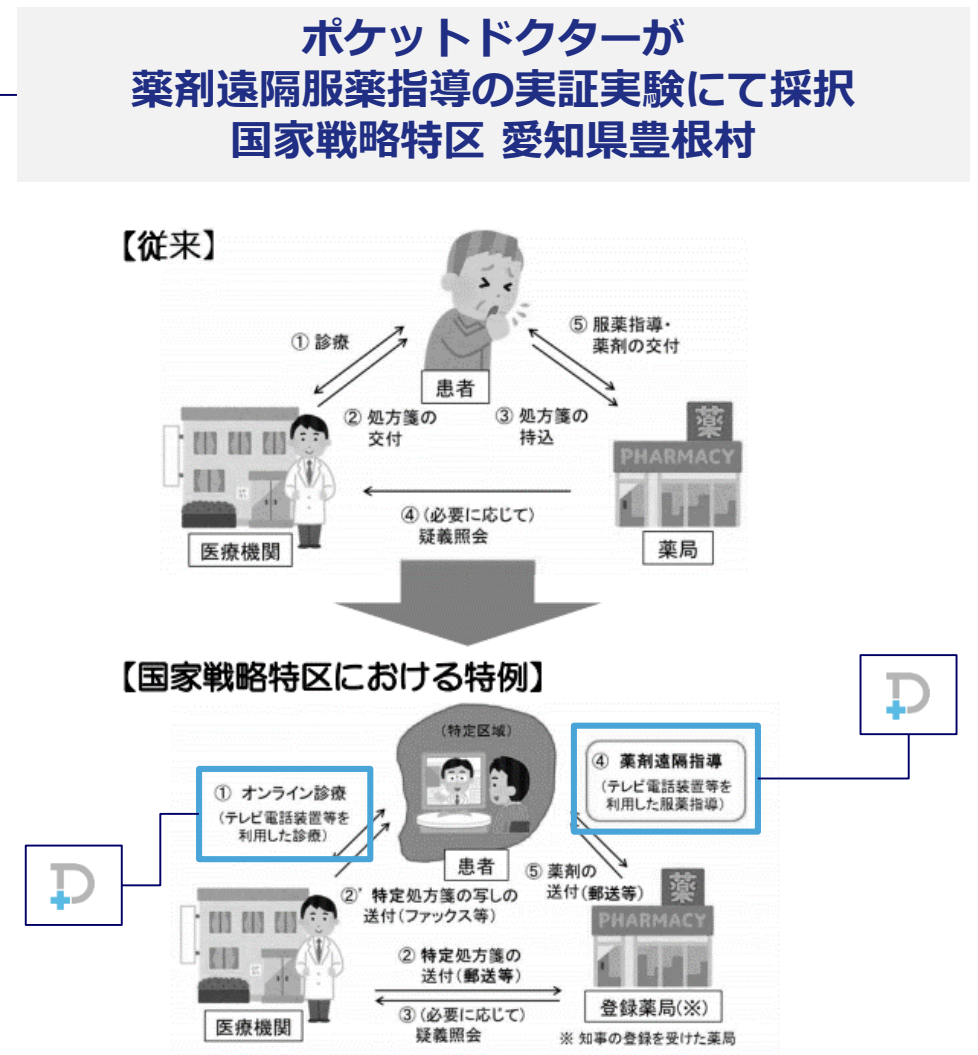
地方銀行等からの借入

9.5億円

※内2億円は2019年4~5月実行

※医師数：【厚労省】平成28年（2016年）医師・歯科医師・薬剤師調査の概況 参照

■ オンライン診療の動向

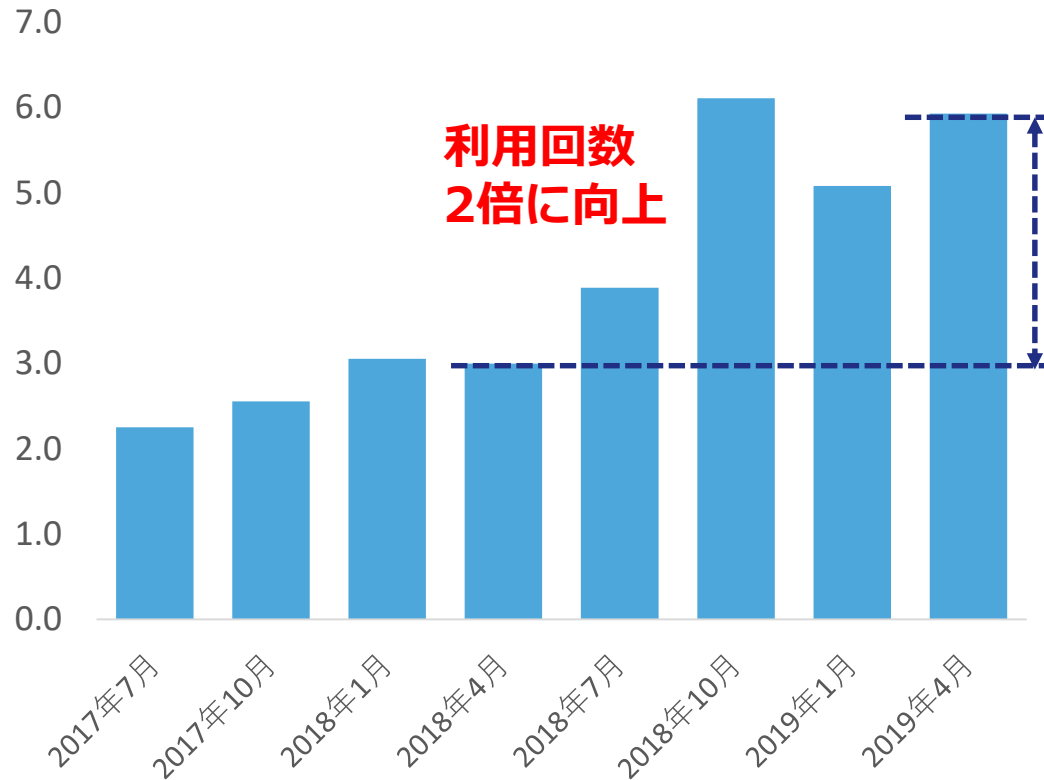


出典：愛知県「第8回愛知県国家戦略特別区域会議愛知県提出資料」平成30年5月30日

■ ポケットドクターの事業展開

オンライン診療ポケットドクター
稼働1施設当たり利用回数/月

(単位：回)



現時点での診療報酬

- ①診療科が限定的
- ②算定されるハードルが高い

市場の拡大に時間がかかる
※今後の診療報酬で見直し中

次回診療報酬改定および薬機法改定に向けて

導入数の増加よりも優先
利用回数（稼働数）向上
サービス品質向上

■ 拠点、各種サービスの拡大を実現



I. 企業価値

II. 2019年3月期 決算概要

III. 2019年12月期 業績予測

APPENDIX : 市場環境の現状

- **過去最高**売上収益を予想
- **システム投資**を実施し、2020年度以降の収益に貢献

	2019年3月期 第3四半期	2019年 12月期	
	実績 (単位：百万円)	業績予想 (単位：百万円)	増減高 (成長率%)
売上収益	1,727	1,900	+172 (10.0%)
営業利益	164	120	△44 (△26.9)
税引前当期利益	275	110	△165 (△60.0%)
親会社の所有者に 帰属する当期利益	180	70	△110 (△61.3%)

※2019年6月25日開催予定の第20回定時株主総会で承認されることを条件として、2019年度より決算期を3月末日より12月末日に変更することを予定しております。これに伴い、連結業績予想につきましては、9ヶ月決算となる前提としております。

(対前第3四半期増減率)

■ 売上収益

10.0%

- ・ 医療人材紹介件数の増加

■ 営業利益

▲26.9%

- ・ 広告宣伝費増加
- ・ キャリアコンサルタント人件費増加
- ・ システム開発投資

■ 税引前当期利益

▲60.0%

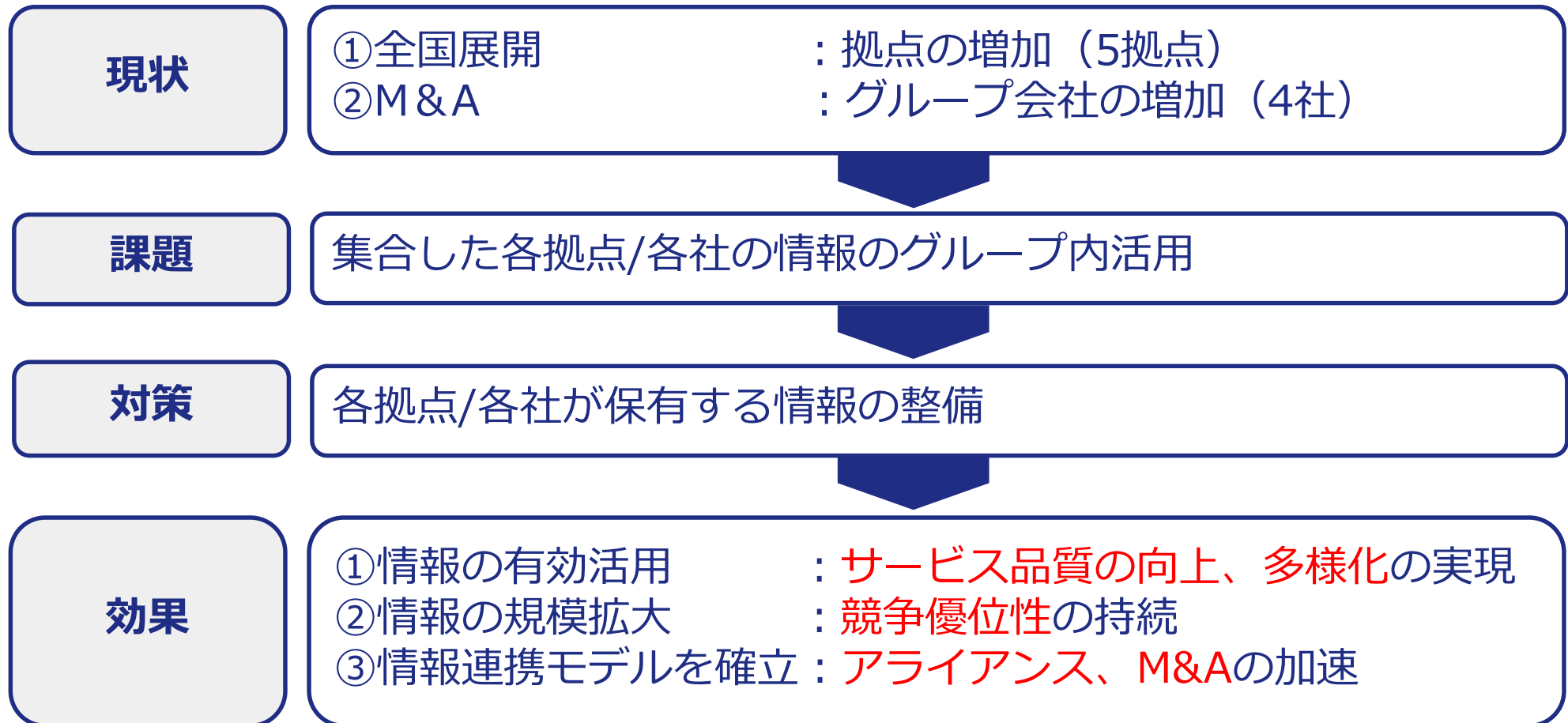
- ・ 前期に関連会社の株式売却など128百万円の利益を計上
- ・ 情報連携を軸とした借入金増加による金融費用増加

① グループの情報の共有化

② 人材、オンライン診療サービスを主軸として展開
その他のサービスを見直し

③ 決算期を3月から12月に変更予定
※第20回定時株主総会決議事項

- 各社保有の会員**25万名**のグループ共有化
- サービス運営の効率化、サービス品質向上、サービスの多様化の実現



- 人材サービス : 情報連携の強化、地域拠点の強化
- オンライン診療/健康相談 : 連携するサービス強化
- ネット医局/Good Doctors : マネタイズの遅れ

現状

(ネット医局)
FASTCALL導入を注力したため、ネット医局サービスの
導入数微増
(Good Doctors)
医療情報発信に関する規制が強化される風潮

課題

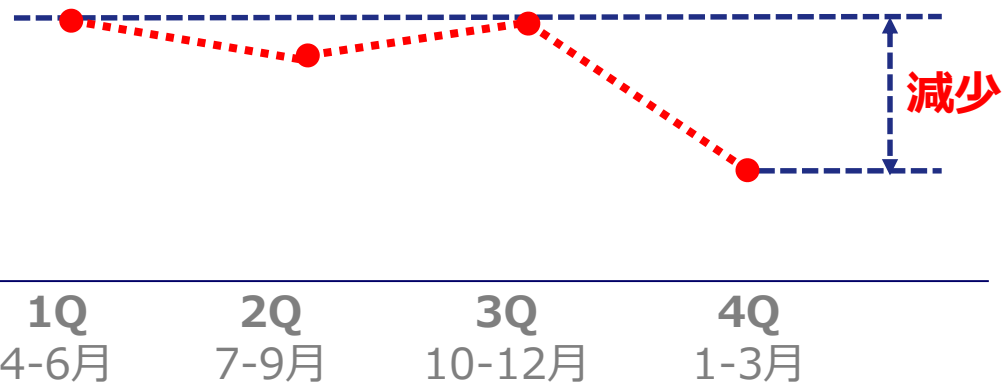
(ネット医局)
システムのリプレースの投資が必要
(Good Doctors)
コンテンツ作成にかかるコスト増加

解決

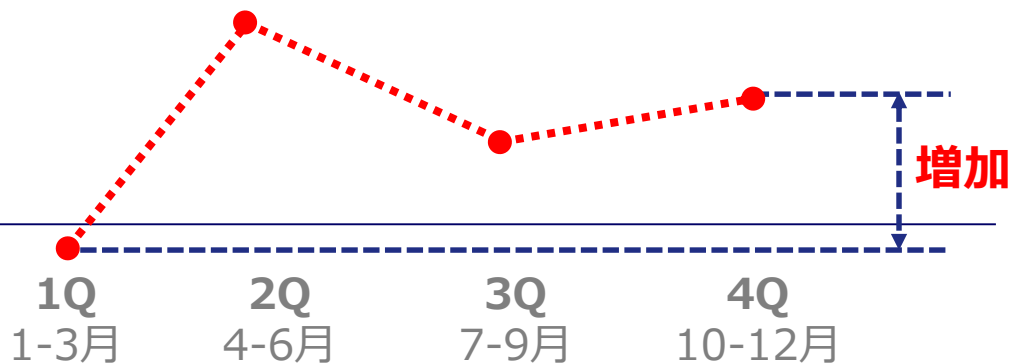
マネタイズの仕組が構築できなければ撤退も視野に

- 毎年4月に営業利益が集中することにより、
通期の業績見通に対する業績進捗の判断が困難

3月決算の場合の営業利益累計



12月決算の場合の営業利益累計



決算期を3月から12月に変更
※第20回定時株主総会決議事項

通期に向かって利益が
積み上がる収益構造に変更

通期の業績見通しに対する
各四半期業績の進捗が明確化

株主・投資家への適時・
適切な投資情報提供

I. 企業価値

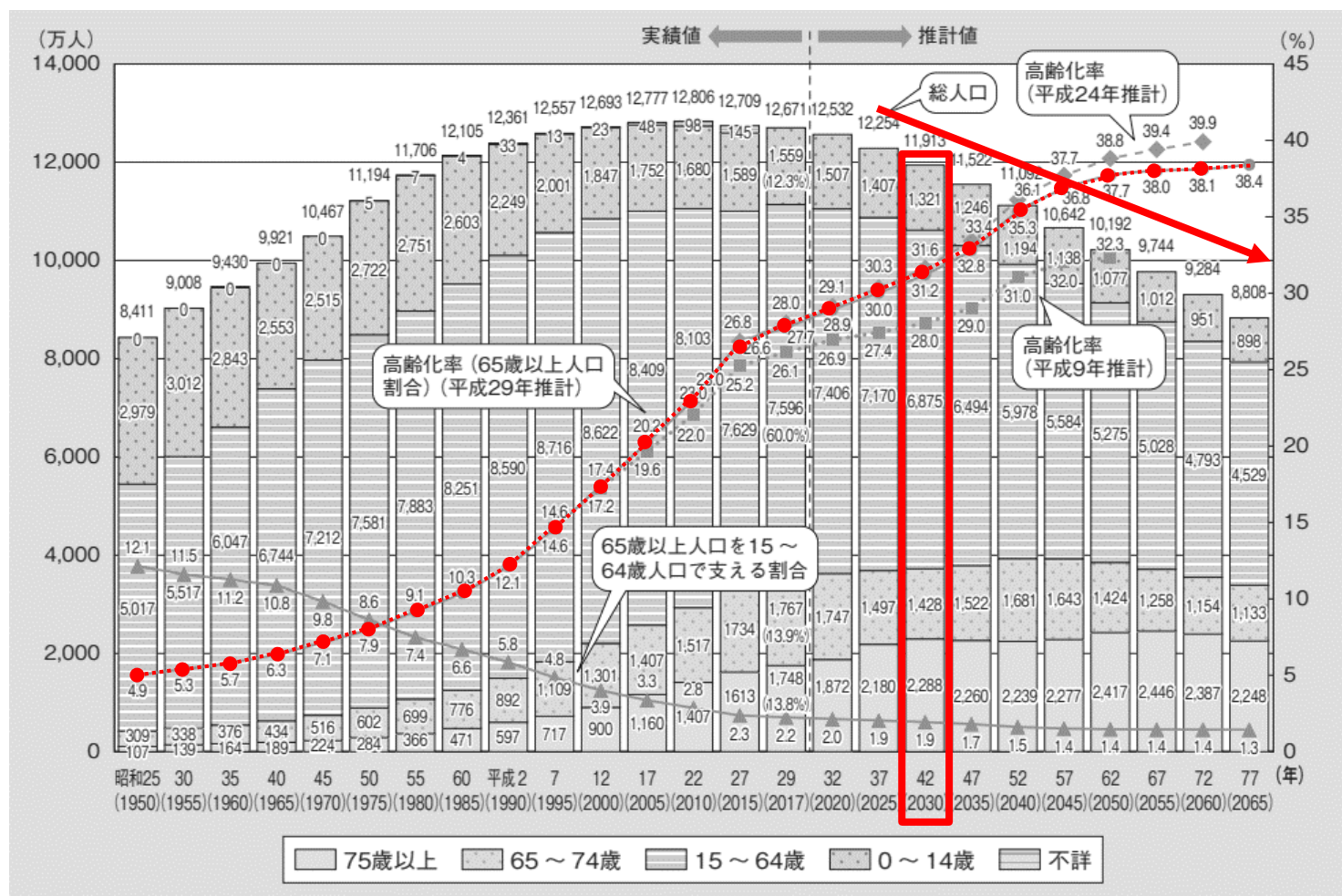
II. 2019年3月期 決算概要

III. 2019年12月期 業績予測

APPENDIX : 市場環境の現状

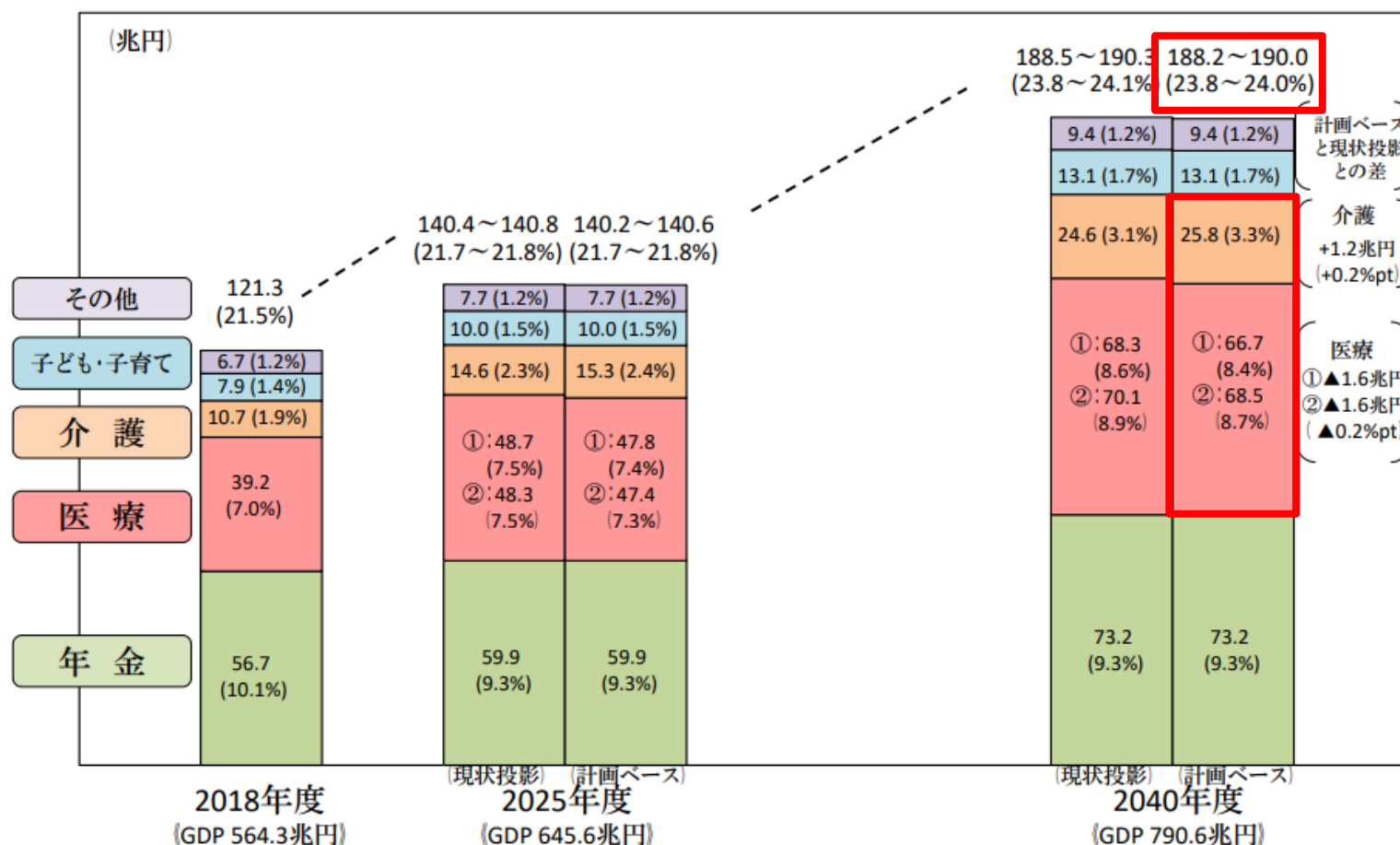
社会保障費の増大（高齢化率）

2030年 総人口1.2億人 65歳以上**31.2%**



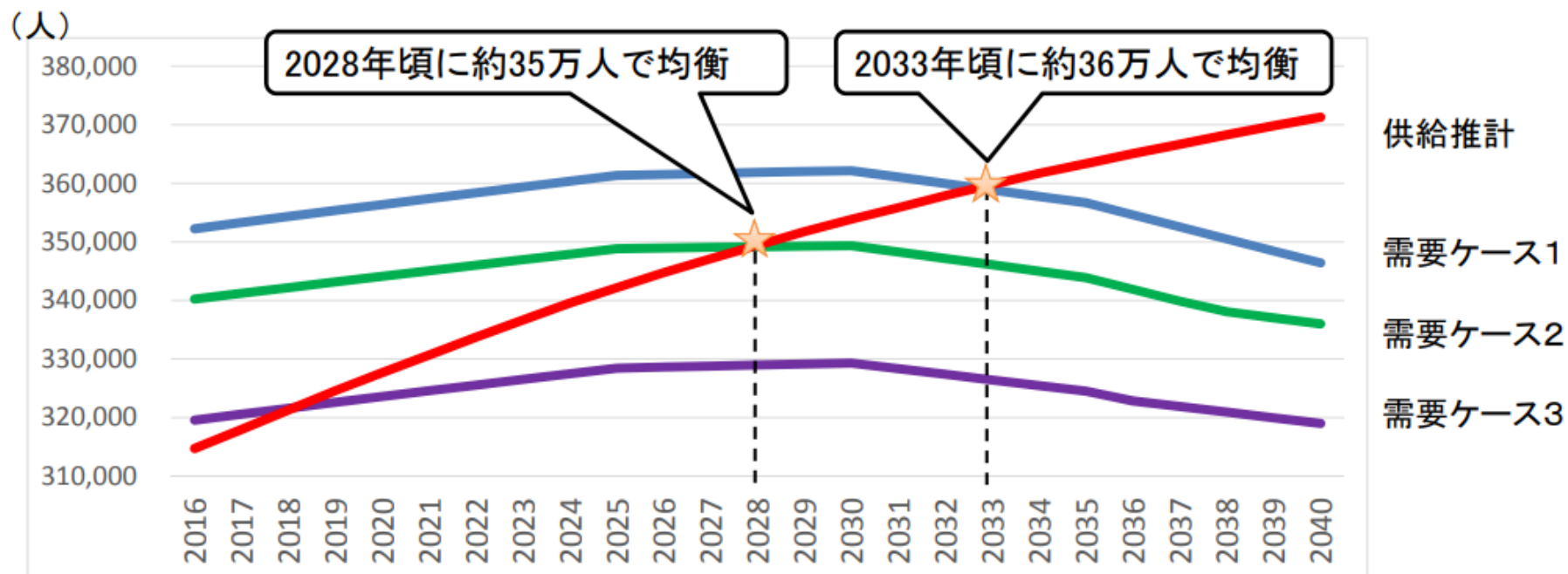
出典：内閣府「平成30年版高齢社会白書」第1章 高齢化の状況（第1節 1）

2040年、社会保障費は**190兆円**に
 医療**68.5兆円** 介護**25.8兆円**



出典：内閣官房・内閣府・財務省・厚生労働省 「2040年を見据えた社会保障の将来見通し（議論の素材）」平成30年5月21日

2028～2033年に医師受給均衡



実態は稼働力のある**若手医師**が不足
診療科別、地域別でも不足

医師の地域偏在は拡大（過疎地域医療圏では24%が減少）

二次医療圏ごとに見た人口10万人対医療施設従事医師数の増減（2008年→2014年）



【備考】

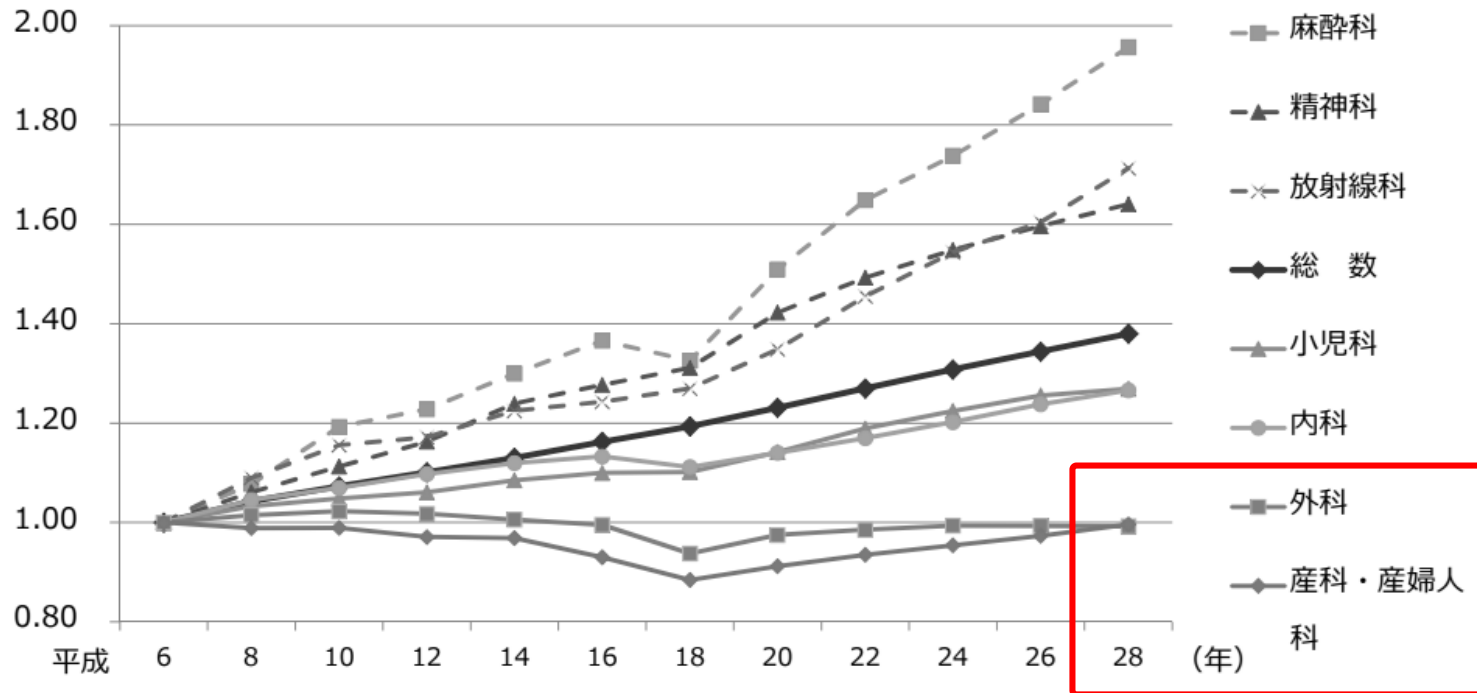
大都市医療圏（52圏域）：人口100万人以上又は人口密度2,000人/km²以上
 地方都市医療圏（171圏域）：人口20万人以上又は人口10～20万人かつ人口密度200人/km²以上
 過疎地域医療圏（121圏域）：大都市医療圏にも地方都市医療圏にも属さない医療圏
 ※ 2次医療圏については、2014年時点のもの（全344圏域）

【出典】

医師数：医師・歯科医師・薬剤師調査
 人口、人口密度：国勢調査

長時間労働、医療訴訟リスクの高い
外科、産科・産婦人科は横ばい

診療科別医師数の推移（平成6年を1.0とした場合）



- この資料は投資家の参考に資するためMRT株式会社（以下、当社）の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。
- 当資料に記載された内容は、本発表現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

<https://medrt.co.jp>

MRT株式会社

〒150-0041

東京都渋谷区神南一丁目18番2号 フレーム神南坂3F

TEL:03-6415-5280 FAX:03-6415-5282